

主 文

本件上告を棄却する。

理 由

被告人の上告趣意（同補充による趣意を含む。）は、事実誤認の主張であつて、
刑訴法四〇五条の上告理由に当たらない。

弁護人市来八郎、同佐川晶彦の上告趣意中憲法三一条違反をいう点は、実質は単
なる訴訟法違反の主張であり（東京都内においては、東京都道路交通規則 原判決
の法令適用欄に東京都道路規則とあるのは誤記と認める 六条により、原則として
普通自動車の最高速度が四〇キロメートル毎時と定められており、右規制が東京都
公安委員会の設置する道路標識によつて行われていることは、公知の事実というこ
とができるから、その認定につき、必ずしも証拠を要しないと解すべきである。）、
その余は、事実誤認の主張であつて、刑訴法四〇五条の上告理由に当たらない。

また、記録を調べても、同四一一条を適用すべきものとは認められない。

よつて、同四一四条、三八六条一項三号により、裁判官全員一致の意見で、主文
のとおり決定する。

昭和四一年六月一〇日

最高裁判所第三小法廷

裁判長裁判官	下	村	三	郎
裁判官	五	鬼	上	堅 磐
裁判官	横	田	正	俊
裁判官	柏	原	語	六
裁判官	田	中	二	郎